

# 思ひ草

第32号

令和2(2020)年9月10日 発行

## 新たな人と人とのつながりを

人間開発学部長 なりた のぶこ 成田 信子



國學院大學人間開発学部は創設12年目となりました。目的に「人づくり」を掲げています。人はみな誰もが等しく活かし活かされるべき存在として、資質・能力を開花させ、人間力を開発されるべきだという信念のもとに教育・研究を進めています。

今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、わたしたちの生活は一変しました。人間開発学部は、人と人がつながり合って学ぶことをことのほか大事にしてきました。教員と学生、教育現場や地域が共に育っていく「共育」の精神です。大学の授業はオンラインとなり学びの形は変わりましたが、この精神に変わりはないと考えます。しかしながら実際に起こっていることは、今まで当たり前だと思っていたことの見直しを迫っています。人と人がつながるとは、どのようにして可能になるのかということです。朝日新聞の5月5日朝刊に、SF作家の藤井太平洋氏が、仮想空間は手で触れられる現実の「代わり」ではない、と提

起しています。世界中からSF作家が集まる大会がバーチャル開催となったことで、藤井氏はそこで使われるCG家具、アート作品を飾る壁、サイン会の看板等を製作することになりました。作品が参加者の記憶に残るとしたら、もはやそれらは物理的な会場の代替品ではなくなると述べています。社会においてはすでに、ロボット等により、人がその場になくても誰かとつながり、活動が可能になるシステムも開発されています。今後教育への応用も期待されます。現実には出会ったことのない世界の人々と触れ合えるチャンスともいえるでしょう。

未曾有といえる事態は、人類の叡智を試しています。人と人がつながるとはいったいどういうことなのか、わたしたちの認識の問題として新たに考える契機が訪れているのです。

「共育」「響育」の場をさらに広げて、次の世代の豊かなつながりを期していきたいと念じます。

## コロナ禍に寄せて

教育実践総合センター長 たかやま まこと 高山 真琴



令和2年4月、例年であれば新学期オリエンテーションや新入生歓迎行事で賑わうキャンパスは、静謐な佇まいを見せていました。「COVID-19」(コロナウイルス感染症)の罹患リスクから学生を守ることを第一に、今年度の前期授業は全てリモートで行われ、前期に行う予定の教育実習や教育インターンシップの多くは、後期に日程変更となりました。

今を生きる私たちが未だかつて経験したことのないこのコロナ禍という状況においては、「今までは」というものは通用しないということ、日々痛感させられています。しかし、このような困難な状況は、人間の想像性及び創造性を引き出すきっかけにもなり得ると考えます。教育の在り方を「不易と流行」の鏡に映しながら、現状で出来る授業の創造に力を尽くしている現場からは、新たな教育手法の実践に挑戦している様子が見えてきます。ネット環境を利用した授業はその最たるものでしょう。しかし、その

授業をもって学び得るものについて考えた時、多くの先生方が、学びの場としての学校の存在意義を改めて認識したのではないのでしょうか？これから教育インターンシップや教育実習に向かう学生たちが、学校、幼稚園、保育園などの現状から学んでくるものは、非常に多様な教育のあり方でしょう。実践の場での体験を大学での学びと照応させながら、教職とはどういうものなのかを学生諸君には本気で考えて欲しいと思います。

教育実践総合センターは、平成21年、人間開発学部創設以来、教職を目指す学生の学びへの支援と、教育実践に寄与することを目的とした地域の学校や教育機関への支援という役割を担ってきました。人間開発学部の「響育」の理念のもと、教育の現場と学生を結びながら、この言葉をモットーにその役割を今後も真摯に果たしていきたいと思えます。

Durch Schaden wird man klug.(艱難汝を玉にす)

## 転入職員紹介

### 師道

人間開発学部教育実践総合センター  
くじらおか ひろたか  
客員教授 鯨岡 廣隆



昨年度、東京都の公立学校教員採用選考で小学校(全科)の応募者は3681人いました。その内正式に4月教壇に立った人は1588人でした。この数字は、都内の公立小学校に必ず1人か2人は新規採用の担任が誕生したことを意味します。

今学校では新規採用、中堅・ベテラン、再任用という3層の教師が教育に携わっています。来年度からは会計年度任用職員という新たな制度が始まり、今後4層構造となっていく予定です。この会計年度任用職員とは、人生100年という時代背景を受け、年齢制限なし、1年単位(会計年度)の採用、教員免許を持っていれば都道府県や政令指定都市の採用選考とは無関係に応募できるということに特徴があります。近い内に、例えば埼玉県で長らく教員を務めていた80歳台の人が東京都の学校で教壇に立って指導する風景が見られることとなるでしょう。

私はこれまで学校や行政と様々な立場から教育に携わってきました。学校制度や学習指導要領は変遷し、社会や時代背景、人の意識や考え方も刻々と変化してきました。教師に求められる資質能力や期待も常に流動的です。しかしどのような変化や変遷があっても、学校教育は教師と児童・生徒による営みであるということに変わりはありません。何と言っても教育の成果は教師の力量によるものです。一人一人の教師が自覚をもって教師道を突き進んでいくしかないものだと痛感しています。

この度、御縁があって本學に籍を置くこととなりました。これから教師になろうという学生とともに過ごせることに無常の喜びを感じます。教員養成という大義は、国家の根幹を下支えするものです。意欲のある学生さんたちと接し、改めてその力量向上に貢献できることを光榮に思います。学生時代は好きなことを思う存分やったらいいと思います。そしてそうした生活や研究の中から自分の存在感や何らかの使命感を見出し世の中に飛び立って欲しいと願っています。

### たゆまず自分磨きを！

人間開発学部教育実践総合センター  
いわき まさこ  
客員教授 岩城 眞佐子



今年度より教育実践総合センターに着任いたしました岩城眞佐子と申します。

私は、東京都世田谷区立幼稚園教諭として教員生活をスタートし、3地区8園で教諭、教頭、園長を務めてまいりました。その経験を生かして、その後の3年間を東京都教職員研修センターで、東京都公立幼稚園・こども園の新規採用教諭の研修を担当してまいりました。

初任者の皆さんが初めは日々の保育に悩みながらも、1年後には自信をもって、幼児の前に立つ姿を見ると、その成長ぶりに大きな喜びを感じてまいりました。教師としての自信の源になるのは、幼児への愛情をもち、信頼関係を築いていくことはもちろんですが、自身が好きなこと、得意なことがあり、幼児と一緒に活動することを楽しめる感性が必要だと感じてきました。

幼児期は、人生の基盤となる大事な時期であります。一人一人の幼児にとって、幼児期に自己を発揮できるようになること、自己肯定感をもつことができること、そして人(他者)を信頼できるように育てることが大切だと考えます。

「教育は人なり」と言われます。教師の見方・考え方・人間性によって、教育内容や質が大きく変わってくるのです。教師は、自ら学び、自己研鑽に励んでいくことが求められます。それは、決して容易いことではありませんが、学び続けることによって、自分の指導力が向上し、使命感や達成感を味わっていくことができるのです。

皆さんには、この貴重な学生時代、ぜひ多くの人と出会い、自分の世界を広げるべく、様々なチャレンジをしてほしいと思います。一人一人の幼児に向き合っていくためにも、様々なことに興味をもち、自分の可能性を信じてやり遂げた達成感を味わってほしいと思います。

また人と同じ目的に向かって、協働する充実感も味わってほしいと思います。自分の好きなこと、得意なことをたくさん見つけ、社会に羽ばたいてほしいと願っています。



## 自粛後の学習支援等

### ようこそ、先輩！オンラインでの教採対策

初等教育学科教授 たかはし さちこ 高橋 幸子

今年も教員採用試験二次対策に向けて、同じ志を持つ仲間が集って、あちこちで切磋琢磨している姿が見られる。その熱い思いと真剣なまなざしは例年同様であるが、大きく異なるのはそれが画面を通しても行われることである。地方に帰省中の学生も参加できるというのはオンラインならではといえよう。

オンラインでの教採対策のもう一つの収穫は、すでに働き始めた先輩が出席してくれることである。「教室から飛び出す児童がいた場合には？」「マスクをつけるのを嫌がる児童がいた場合には？」「パニックになった児童がいたら？」などなど、いわゆる「場面指導」について、リアルな語り先輩の口からあふれ出てくる。しかし、淡々と気負いなく学校の日常を彷彿とさせてくれる。卒業して4か月。しかも今年はコロナの影響もあり実際に子どもと関わったのは2か月ほどだったという。にもかかわらず、現場で一人の教師として働き始めることの重みを彼らは十分伝えてくれた。

本学において、特別支援学校教諭免許を取得できるようになっての第一期生。画面越しに尋ねた。「学校はどうか？楽しい？」照れたように髪をかき上げながら「楽しいっす」「子ども、かわいいっす」とほほ笑んだ。その言葉を聞いて無性に嬉しくなった。まずはそこが出発点。いい人を送りだせたと感無量であった。「先輩もきっと後に続きますよ。ありがとう。」と心の中でエールを送りながら画面を閉じた。

### でもやっぱり、会える方がいい

健康体育学科教授 うえはら きちお 植原 吉朗

ガイダンスも、その後の連絡も、Zoomかメール、顔が見えないもどかしさ。いつもの年なら直に話をする中で知り得た一人ひとりの性格や特徴が、なかなか見えてこなかった。

インターンシップ参加の2年生、延期で後期に教育実習する3年生とも、連絡は全てメールでのやり取り。問い合わせは例年より格段に増えた。それでも、彼らが文字にした言葉から、それぞれの個性は垣間見えたように思う。

差出人名の書き忘れあり、話し言葉のままの文章あり。「住所は、今の住所を書くんですか」(資料を見ればわかるでしょ！)、「電話連絡は、していいですか」(しなさい！)、オイオイと思わせる質問が大半だったが、それでも、何もせぬよりは遙かにいい。行動を起こすことが、全ての事の始まりだ。ヤレヤレとは思いつつ、彼らへの返信にあれこれ腐心した。一面でそれを、私も楽しんでいたのであるかもしれない。

それにしても今年が多い、なぜだろう。そうか、きっとみんな、コミュニケーションに飢えているのだ。教師を志す彼らだから、3密回避で人と接しない・会えない現状が堪え難いのではないか。

実は私も同じだと気付かされた。返信を書き送り「よくわかりました。ご対応下さりありがとうございます！と返ってくると、それだけで無性に嬉しい。今学期は教材準備で日夜キーボードを叩き、授業ではパソコン画面に話しかける虚しい日々、メールの文字からでも気心通じるのは私にも感慨深いことであった。

でも、やっぱり、直に会える方がいい。実習現場で生徒たちと向き合えば、今年は特にひしと感じるはずだ。人は人と接して人たりうるのだから。

### 新しい発想に期待

子ども支援学科准教授 ひろい ゆういち 廣井 雄一

子ども支援学科では、2年生を対象に3年次に行われる教育実習の希望を聞き取るために、各ルームで面談を行っている。今年度、私のルームでは、Zoomを使用した個人面談を実施した。面談の際には、教育実習の希望の他に、自粛生活の状況や授業への取り組みについても聞いてみた。

授業については、慣れない遠隔授業のため、戸惑いや不満が多いかと思っていたが、意外なことに「友達と話してしまうこともなく、集中できる」、「復習が習慣になった」などの感想が聞かれた。それにより、「知識が定着している」実感を持つ学生もいた。

私は、前期の遠隔授業の実施にあたり、準備や毎時の学生アンケートの確認など、授業形態の変化に四苦八苦していた。画面に語り掛けてもリアクションがなく、学生の様子がわからないまま孤独を感じた。しかし、学生たちが戸惑いつつも新しい授業形態を受け止め、学修をポジティブにとらえ、学びを深くしている姿には、幼いころからデジタル文化に親しんでいるという理由もあるかもしれないが、力強いものを感じた。

緊急事態宣言中に、卒業生の様子を聞いたところ、休園中も子どもたちに届けるための教材づくりをしているとのことだった。また、インターネットを利用して子どもの遊びを支援する教材の紹介や動画配信等に取り組む園や自治体もあった。今の状況下でできることを皆が考え、工夫しているのだ。今までの価値観では乗り切れないこのコロナ禍にあって、私たちは意識を変え、新しい生活の仕方を模索している。幼いころからデジタル文化に親しんできた在学生在が、今の困難な状況を乗り越え、新たな保育のあり方を創造してくれることを期待したい。

## 教員採用試験の取組

### コロナ禍でも夢に向かって

初等教育学科 4年 <sup>むらかみ かよ</sup>村上 佳代

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、数カ月前までには予想もしていないほど生活形態は激変しました。私自身、教員採用試験一次に向けて、オンライン授業と両立しながら勉強に励んできました。仲間と会えないこと等の困難もありましたが、一方で自分自身と向き合って将来について考える時間は多く持つことができました。また、「Zoom」によって、会わずとも仲間と交流をし、モチベーションを保つことができました。非常事態で、神経をすり減らす日々が続いていますが、将来にかける思いや仲間の大切さを身にしみて感じ、これからに生かしていける原動力としていきたいと思います。

### 同じ志をもつ仲間と共に

初等教育学科 4年 <sup>にしむら よしのり</sup>西村 慶徳

新型コロナウイルスが流行し、かつて経験したことのない状況が現在まで続いています。特に長く続いた自粛生活に慣れることはとても難しいことでした。こうした状況でも、私が教員採用試験の対策に粘り強く取り組めた理由に、同じ夢をもつ友達の存在があります。Zoomを用いて、自治体の仲間と小論文の添削をし合い、別の自治体の仲間とも面接練習を何度も繰り返しました。友達の努力する姿をみて、「自分も頑張ろう」という刺激を受けていました。モチベーションも次第に高まり、環境に言い訳することなく自立して勉強することの大切さを改めて実感しました。教員採用試験までの日数は迫っていますが、仲間と共に夢の教壇に立てる日を夢見て、残りの期間も大切に頑張ります。

### コロナ禍に対する試験への対策と準備

健康体育学科 4年 <sup>きたむら かいと</sup>北村 魁人

私は、栃木県の高等学校の保健体育を受験、大学開催の教職講座やガイダンスへ積極的に参加し、どのように試験対策をしていくか計画を立てながら進めていきました。

筆記試験対策は、受験する栃木県の出題傾向や過去問に取り組み、去年合格した先輩からアドバイスをいただき、それをもとに勉強法や準備の対策に努めました。実技試験は、ウイルス感染拡大の影響から、工夫をする必要がありました。指定の競技種目の動画を参考にし、感染防止に注意を払いながら実際に練習をするよう心掛けました。

今年はオンライン授業や自宅学習となり、私自身戸惑いましたが、万全な計画を立てることでモチベーションが向上し、自宅学習でも試験対策を立てることができたと思います。

### 先生や仲間の支えに感謝して

子ども支援学科 4年 <sup>さとう ゆうな</sup>佐藤 由奈

「こんなはずではなかった」これは、緊急事態宣言が発令された際に感じていたことです。私は特別区公立幼稚園の試験まで2か月を切る中で、小論文の添削をして頂くことや図書館での勉強ができなくなり焦燥感に駆られていました。しかし、先生方がメールでの添削を通して私たちに寄り添って下さったことにより、前向きな気持ちになれました。また、友人とzoomを用いて問題を出し合うなどして協力したこともあり、無事一次試験に合格することができました。そして、現在の二次試験の対策では実践演習の場を利用して、先生方の手厚いご指導や仲間と互いに改善点を指摘し合い、共に合格を目指しています。以上のことから、私は國學院の学生として試験が迎えられていることを誇りに思っています。

### 今年度のスタッフ

#### ◆教育実践総合センター

センター長 高山 真琴

副センター長 田村 学

担 当 小笠原優子 鯨岡 廣隆 岩城眞佐子

國學院大學人間開発学部教育実践総合センター

〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-22-1

電話:045-904-7711 fax:045-904-7709